

平成30年度 第1回 加齢研交流セミナー

6/14 (木) 16:00-17:10

@実験研究棟 7F セミナー室(1)

16:00-16:30

スマート・エイジング
学際重点研究センター
/応用脳科学研究分野

野内 類先生

徹底討論: 高齢者の生活力を向上させる認知トレーニングの効果

ゲームや知的な作業など通じて生活力の向上を目指す介入を認知トレーニングと呼ぶ。認知トレーニング研究の醍醐味は、トレーニング課題の成績が伸びるだけでなく、その他の認知機能や生活技能も改善させる可能性があるという点である。例えば、脳トレゲームを実施するだけで、簡単に認知症予防や生活の質が改善できるのであれば、とても魅力的である。ところが、過去の認知トレーニング研究のメタ分析を見ても、認知トレーニングの効果は一貫していない。本発表では、発表者たちの研究グループの開発・実証してきた認知トレーニング研究の成功・失敗談を報告しながら、認知トレーニング研究の結果が一貫しない原因が、そもそも認知トレーニングの効果自体が弱いからなのか、研究方法・報告方法が一貫していないからなのか、参加者の個人差によるものなのかについて、議論したい。

16:40-17:10

生体防御学分野

小笠原 康悦先生

次世代シーケンサーを用いた免疫受容体解析とその応用

免疫細胞には数多くの病原体やタンパク質(抗原)に反応できる能力がある。T細胞は多くの抗原に反応するために、必然的に多くの種類のT細胞受容体を持ち、また、重要な受容体を持ったT細胞は記憶細胞として残っている。このことは、身体の中のT細胞受容体群には、疾患に対応する受容体が含まれていることを意味し、T細胞受容体群は、疾患に対する情報の宝庫であると考えられる。そこで、我々は、T細胞受容体を網羅的に解析するため、2つの技術を開発した。1つは、遺伝子特異的非バイアス増幅法であり、もう1つは、次世代シーケンサーで得られたデータを高速で処理できるソフトウェアの開発である。これら技術により、T細胞受容体群をハイスループットスクリーニングすることができるようになった。今回、我々の開発した技術シーズを紹介するとともに、がんやアレルギー、感染症などの疾患に対する最近の研究展開について紹介したい。

連絡先: 加齢医学研究所・研究員会事務局 齋藤 (内線 8576)